



第32号
2024年4月発行 津市図書館

主な内容

- 河芸図書館ぼんすけコレクション・・・表紙
- 各館のイベント報告・・・・・・・・・・2P
- 知ろう私たちの郷土・・・・・・・・・・3P
- レファレンス事例／ベストリーダー・・・4P

河芸図書館「ぼんすけ」

小さいお子さまから大人気のクマのぬいぐるみです。

季節に応じた装いと共に、図書館の入口でご来館の皆さまをあたたくお迎えます！



【美里図書館】

—ころころ広場へ出張おはなし会—

(令和6年2月5日開催)

ころころ広場とは、毎月1回開催されている子育て支援を目的とした遊びの場です。

2月は、節分にちなんだ歌や手遊びやダンス、保健師さんの講話などもあり、親子連れや実習生が楽しく参加する姿が見られました。

最後に、当館職員も絵本の読み聞かせをしました。かわいいパペットに興味を示してさわりに来てくれる子、絵本の内容に目をキラキラさせて見てくれる子など、こちらまで心がほっこりするひと時でした。「また、美里図書館のおはなし会にも来てね！」とお声がけをして、おはなし会を終わりました。



【河芸図書館】

—絵本の読み聞かせと朗読講座—

(令和6年1月26日、2月9日・23日、3月1日開催)

子どもから大人までが楽しめるように、絵本の内容や作者のメッセージが届く表現方法を学びました。

毎年開催しており、参加者の皆さんから好評を得ています。



【芸濃図書館】

—大人も子どもも楽しい落語会—

(令和5年8月26日開催)

当館初開催でしたが、多数のご参加をいただきました。演者の巧みな語り口に、参加者の皆さんから好評を得ました。

—歌と楽器で楽しむ絵本の世界とミュージックバルコンサート—(令和5年12月9日開催)

「ア・ピアチェレ」(読み聞かせ担当)と「ル・レーブ」(ミュージックバル担当)の歌や演奏に乗せた読み聞かせ、演奏会、体験コーナーなど行いました。大人から子どもまで、音楽と絵本の世界を楽しみました。



【きらめき図書館】

—図書館講座—

(令和5年12月16日開催)

伊勢型紙で令和6年の干支の「辰」を彫りました。

たいへん好評いただきました。応募定員は先着10名ですので早い者勝ちです。

今回のお題「辰」は、干支のなかでも難易度の高い題材で皆さん悪戦苦闘していました。

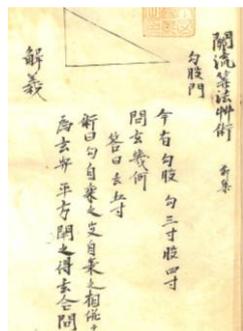


明治以前の日本で使われていた数学である和算。日常生活の計算や学問以外にも、測量や天体観測など他分野とも大きく関わっている。江戸後期に設立した藩校有造館の蔵書群である「有造館文庫」には、多数の和算書が所蔵されている。『有造館文庫目録』によると、35作品140冊程の和算書がある。同目録によると、当時の津藩には和算家として有名な村田恒光、その門人の柳檜悦や堀江鋤次郎らがおり、「有造館文庫」にも『算法側円詳解』(有 1301・1302)を始め、彼らの著作も何点か所蔵されている。

その次に多いのが「井田文庫」で、『井田文庫目録』(以下『目録』)によると、15作品24冊程の和算書がある。「井田文庫」といえば、天文学関係の資料が有名だが、「井田文庫」の井田理左衛門胤信は和算にも興味があり、「関流」を学んだという(『目録』より)。「関流」とは、和算の流派の一つで、江戸前期の和算家関孝和を祖とする流派である。彼は、新しい計算方法を作り、行列式の発見など、和算の発展に大きな成果を残したことから「算聖」と呼ばれている。

それでは、「井田文庫」の和算書について少し見てみようと思う。まず『目録』をみると、「関流」の算法では、内容ごとに一冊から数冊単位でまとまっていることが分かる。その内容は、利息・求積(円の面積を求める)・開平(平方根)・開立(立方根)・統術(帰除式、今の一次方程式のようなもの)・鉤股(三角形に関する問題)など多岐に亘る。

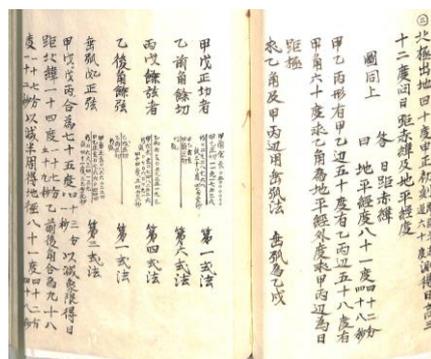
例えば、『関流 鉤股』(井 41-31)は三角形の辺の長さに関する問題について、図と問題文をまとめた資料である。第一問は、「勾三寸股四寸問玄幾何」と問い、解答として「答曰玄五寸(勾の自乗と股の自乗を合わせて玄の平方開



① 『関流 鉤股』

の値を得る))と記されている。数式で表すと、 $3^2 + 4^2 = 5^2$ となる問題である。

また、②は『正斜弧三角図解 全』(井 41-3)という、主に円の中に引いた辺の長さについて三角関数を利用して求める問題をまとめたと思われる資料である。この中には、「御製曆象考成上編卷三斜弧三角形設例八則解」という項目がある。『御製曆象考成』は天文学の資料で、ここでは北極星など天体の角度を求める方法もあり、天文学研究との関わりもうかがえる。



② 『正斜弧三角図解 全』北極出地

他にも、三角関数表に当たる「八線」に関する資料で『八線表術解 上下』(井 41-4・5)などもある。

これらの和算書の内、書写された資料の奥書(書写した年月日や人物名などを記した部分)がある資料については、そのほぼ全てが文化10~12(1813~1815)年の間に「井田理左衛門胤信」により書写されたとある。この年代は、『目録』の解説にある特に書写資料の多い時期の一つに当てはまり、この時胤信は20代であったという。その3年間に少なくとも10数冊もの和算書を書写したと考えられ、若い頃の彼の和算に対する熱心さや興味の深さも感じられると言っても過言ではないだろう。

参考文献

『井田文庫目録』(津市図書館 平成12年)、『有造館文庫目録』(津市図書館 平成16年)、佐藤健一監修『和算の事典』(朝倉書店 平成23年) (他)



レファレンス事例 (図書館では調べもの相談(レファレンス)を受け付けています)

Q:十二支のもともとの由来について知りたい(児童向け)

A:「十二支のはじまり」の絵本ではなく、干支だけではない意味について知りたいと言われたので、下記の資料を紹介しました。

回答:子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥/年まわりだけでなく、方角や時刻、日付にも使われている。

参考図書:『これだけは知っておきたいことも図鑑』パイインターナショナル 033/コ

『季節のこよみ』偕成社 請求記号 | 449/ヒ

『広辞苑』岩波書店 請求記号 | R 813.1/コ

『日本国語大辞典』小学館 請求記号 | R813.1/コ

(うぐいす図書館)

📚 ベストリーダー2023 こんな本が読まれました (2023/1/1~12/31)

2023年に津市図書館で貸し出された本のうち、貸出上位の本(ベストリーダー)をご紹介します。

👑 一般書部門

順位	資料名	著者名	出版者	分類
1	ジブリパーク公式ガイドブック		ジブリパーク	689.5
2	三重のトリセツ		昭文社	291.5
3	京都 '23		昭文社	291.6
4	大阪 '24		昭文社	291.6
5	滋賀・びわ湖 '23 長浜・彦根・大津		昭文社	291.6



👑 文学部門

順位	資料名	著者名	出版者	分類
1	白鳥とコウモリ	東野 圭吾/著	幻冬舎	913.6
2	ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人	東野 圭吾/著	光文社	913.6
3	希望の糸	東野 圭吾/著	講談社	913.6
4	クスノキの番人	東野 圭吾/著	実業之日本社	913.6
5	教誨	柚月 裕子/著	小学館	913.6

👑 児童書部門

順位	資料名	著者名	出版者	分類
1	ノラネコぐんだん アイスのくに	工藤 ノリコ/著	白泉社	E
2	ノラネコぐんだん ラーメン屋さん	工藤 ノリコ/著	白泉社	E
3	ノラネコぐんだん おばけのやま	工藤 ノリコ/著	白泉社	E
4	ノラネコぐんだん おすし屋さん	工藤 ノリコ/著	白泉社	E
5	ノラネコぐんだん そらをとぶ	工藤 ノリコ/著	白泉社	E

